



# 2023先生のための夏休み経済教室 「経済の視点から地理の授業をつくる」

2023.08.22

福井県美浜町立美浜中学校/兵庫教育大学連合大学院

行壽 浩司 (ぎょうじゅ ひろかず)



## 教材化の視点：「需要と供給」「希少性」

- 歴史的分野における大航海時代の単元では、香辛料を求めてアジアへ進出したことを学ぶ。
    - 「こしょうは銀と同じ価値であった。」
    - 現代のわれわれの感覚とはかけ離れている
      - 「なぜ昔は高級品だったのに、今では安価で手に入るのか」
      - 安価で手に入る社会の仕組みにつなげることができる
- Ex. 「エビと日本人」「バナナは一房1100円」（現在の価値で）



著者撮影



## 教材化の視点：「需要と供給」「希少性」

- 歴史的分野における大航海時代の単元では、香辛料を求めてアジアへ進出したことを学ぶ。
  - 「こしょうは銀と同じ価値であった。」
  - 「昔と今では違う」「昔だから」では深まりがない。
- 「現代でも銀と同等の価値のあるスパイスがある」
  - 「この5年足らずで、〇〇の卸売価格は500%近く上昇している。世界的に高まる健康的な天然原料への需要が背景にある。」 2018年 1キロ600ドル（約6万6千円）

<https://jp.reuters.com/article/mccormick-vanilla-idJPKCN1T803V>

<https://www.bbc.com/japanese/44026984>

## 教材化の視点：「需要と供給」「希少性」

- 2017年にマダガスカルを襲ったサイクロンによりバニラの価格が高騰→「昔だから」ではなく、  
現在でも何かの要因によって起こりえること  
→「希少性」
- 歴史が人の営みである以上、  
経済分野とのかかわりは深い  
→地理的分野ではどうか。





# ある国をピックアップして授業化する

例えばインドを中心に教材化してみる

インドのマクドナルドでは「マハラジャ・マック」が販売されている

→ご当地バーガー

日本であれば「月見バーガー」「てりたま」「えびフィレオ」

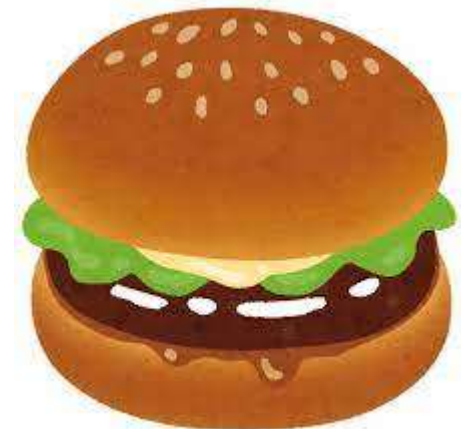
オランダの「コロツケバーガー」

参考

河原和之編著

『100万人が受けたい「中学地理」ウソ・ホント？授業』（明治図書）

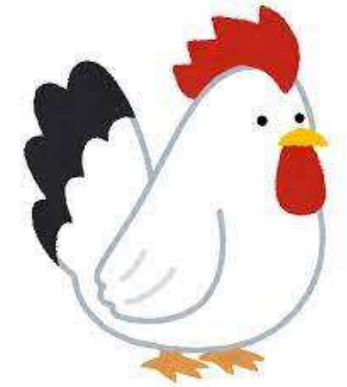
『続・100万人が受けたい「中学地理」ウソ・ホント？授業』（明治図書）





# ある国をピックアップして授業化する

インドの「マハラジャ・マック」 →  
インドの人口の80%がヒन्दゥー教



「だから鶏肉のハンバーガーを販売している」  
→ できることなら「意外な事実」を示したい





# ある国をピックアップして授業化する

インドの人口14億人

その80%がヒンドゥー教で牛を食べない

→ 20% (約3億人) は牛肉を食べる

日本は1億3千万人、アメリカ合衆国は3億人

→ 大きなビジネスチャンスがインドにはある

参考 宮路秀作著『経済は地理から学べ!』(ダイヤモンド社)







# ある国をピックアップして授業化する

- ・ インドの洗濯機には〇〇モードがある
- ・ インド版巨人の星では  
ライバルが〇〇の車で登場する

## 参考

河原和之編著

『100万人が受けたい「中学地理」ウソ・ホント？授業』（明治図書）

『続・100万人が受けたい「中学地理」ウソ・ホント？授業』（明治図書）

宮路秀作著『経済は地理から学べ！』（ダイヤモンド社）



# ある国をピックアップして授業化する

- インドの洗濯機にはカレーモードがある
- インド版巨人の星ではライバルがスズキの車で登場する
  - 家電や自動車が売れるためには中間層が豊かでなければならない
  - BRICS 欧米のかつての植民地
    - ブラジルでは軍人の数よりも○○販売員の方が多い
    - 美容は豊かさの象徴



参考

ジェシカ・ウィリアムズ著『世界を見る目が変わる50の事実』（2007年）

# ある国をピックアップして授業化する

インドでは海外のIT企業が多く進出している。  
インドでITが強い理由は何？



- ① ○○が得意 → 二桁×二桁のかけ算
- ② ○○が準公用語 → かつてイギリスが植民地支配
- ③ アメリカ合衆国と○○が逆 → 24時間対応できる
- ④ ○○制度の制限がない → 開かれたチャンス



# 「コスト」から地理の授業を捉え直す

この間に世界経済も日本経済も大きな変貌をとげました。

しかし、残念ながら経済の現実を教科書では十分にフォローすることが出来ていません。

このような現実と教科書のギャップを埋めて、生徒が腑に落ちる経済の授業をどうつくりあげてゆくか、この夏もエコノミストとともに考えてゆくプログラムを用意しました。

→従来までの地理的分野の授業を経済的な視点で捉え直す  
今回は「コスト」に注目

# ある国をピックアップして授業化する

インドでは海外のIT企業が多く進出している。

インドでITが強い理由は何？ **\*コスト面から**

- ① **数学**が得意 → 二桁×二桁のかけ算  
→ プログラミング教育を行う際のコスト軽減
- ② **英語**が準公用語 → かつてイギリスが植民地支配  
→ 他民族国家をまとめる言語としてコストがかからない
- ③ アメリカ合衆国と昼夜が逆 → **24時間対応できる**  
→ アメリカにコールセンターを置くよりもコスト軽減
- ④ カースト制度の制限がない → 開かれたチャンス





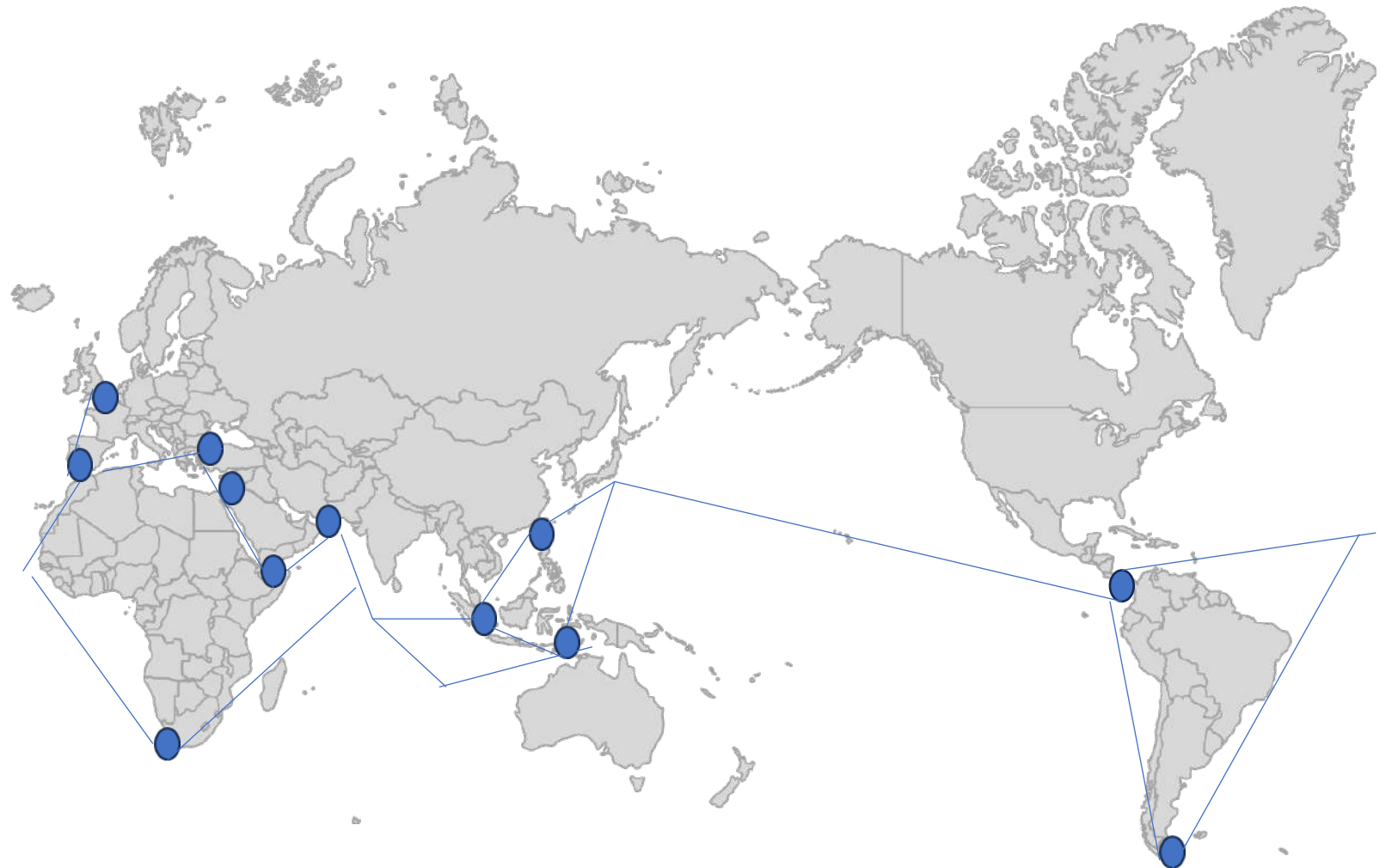
# 地理的要因から経済を考える



著者撮影

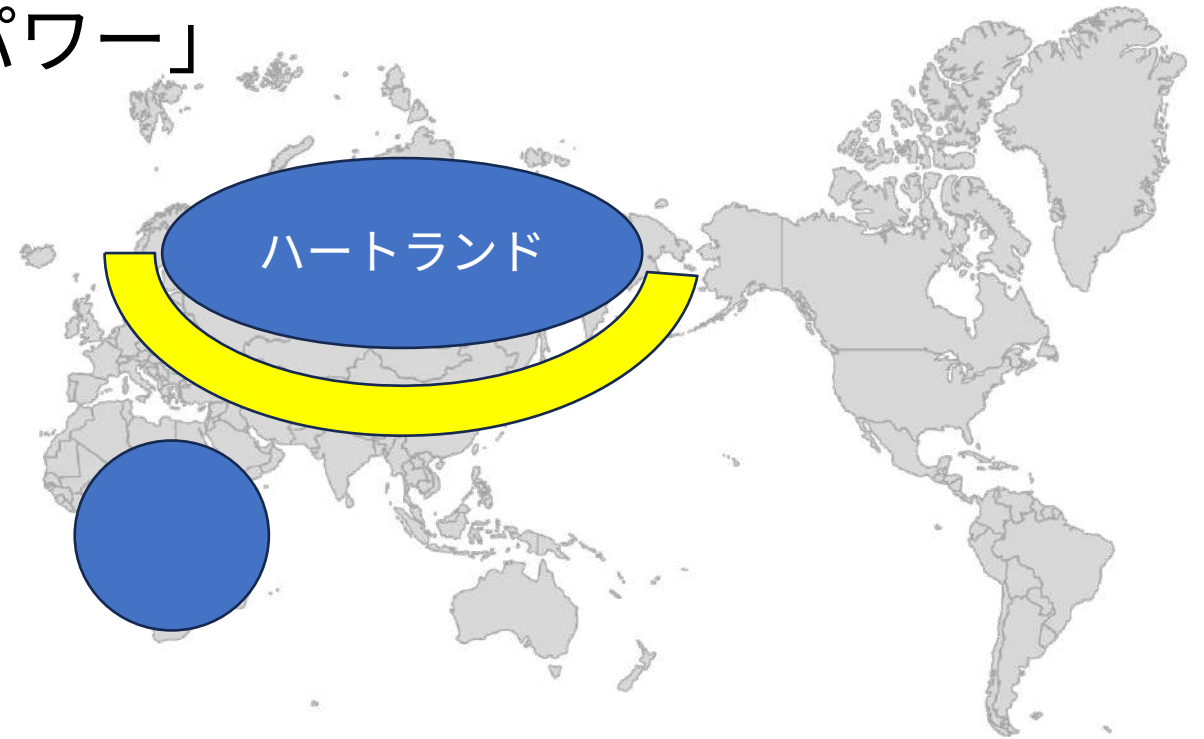


# 地理的要因から経済を考える



# 地理的要因から経済を考える

- 陸の地政学…マッキンダー「ランド・パワー」
- 海の地政学…マハン「シー・パワー」



## 参考

出口治明『教養としての「地政学」入門』（日経BP）

宇田川勝司『なるほど世界地理』（ベレ出版）

HOTNEWS『地政学の基礎用語まとめ』（2022.05.30）<https://hotnews8.net/society/world/geopolitics>





# 地理的要因から経済を考える



北海道でバナナを作れない

→ 熱帯地方で作っているバナナを輸送するコスト  
北海道で作るコスト

(バナナは悪しがはやい → エクアドルよりもフィリピン)

環境決定論ではなく環境可能論 経済決定論ではなく経済可能論

経済地理学≡人文地理学 地域経済＝「ミクロ」の視点

経済「マクロ」な視点

地理的事象は経済の視点がないとうまく説明できないのではないか

山形でバナナ → 地熱「雪バナナ」 → 「希少性」「話題性」



# 地理的要因から経済を考える



参考：JA全農山形県本部

雪国 山形県戸沢村で育てられた おいしいバナナです



「ぽんぽ館」温泉熱利用 **雪ばなな** 山形県 戸沢村 JAおいしいもがみ

# 地理的要因から経済を考える

- 中国 … 一帯一路政策
- 減反によって小規模な農家はコスト面から淘汰される  
→ 新潟や北海道が残る
- 廃校を利用して農業 → ビニルハウスよりもコスト面で良い  
どこに農地をつくるか → 立地の問題  
どこにどんな人がいるのか → 経済

参考

農林水産省 『廃校再生プロジェクト』

[https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/regeneration\\_bcnm.html](https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/regeneration_bcnm.html)



# 地理的要因から経済を考える



農林水産省 『廃校再生プロジェクト』

[https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/regeneration\\_bcnm.html](https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/regeneration_bcnm.html)





- まとめ

①地理的分野の授業は経済の視点から捉え直すことで、教科書と

現実とのギャップを埋めることができるのではないか。

②今回は「コスト」という視点で、従来までの地理的分野の授業を再構成する試みを行った。

③授業内容の分かりやすさを求めるあまり、環境決定論で授業をしてしまいがちであるが、今後は環境可能論で教材を捉え直すべき。そのフレームワークが「コスト」である。